



みやぎ

文化芸術レポート



令和8年7月「宮城におけるアーティスト・イン・レジデンス（R7事業報告）」

みやぎ県民文化創造の祭典（通称「芸術銀河」）実行委員会では、令和7年度、普段芸術に触れる機会の少ない人々が芸術に触れる機会を創出することを目的として「アーティスト・イン・レジデンス事業」（以下AIR）に対して支援を行った。

AIRとは、国内外から招聘したアーティストが一定期間滞在し、地域の歴史や文化、自然、産業などの地域資源を活用し、地域の方々と交流・共創しながら、地域とのつながりの中で作品を創作する過程を共有する事業のことで、近年全国各地で急増しており、日本のAIRのデータベース「AIR_J」に登録されているだけでも117件の事業が展開されるようになっている。（※1）

東北各地でも多彩なAIRが展開されており、AIRが展開されている地域では、滞在するアーティストの多彩な創作活動を通じて、地域に内在する様々な課題と向き合うことが期待されている。例えば、福島県沿岸部の市町村で実施する「ハマカル・アート・プロジェクト」は、アーティストやアート・プロジェクトを介在して、関係人口や交流人口の活性化を目的の1つにしている。また岩手県陸前高田市の「陸前高田アーティスト・イン・レジデンス（現Kesen Life & Art）」では、地域の課題に対して、住民とアーティストと一緒に解決に取り組んでいる。

宮城県でも、県内を拠点に活動している文化芸術団体のAIR事業をパイロット的に支援することとし、令和7年度に「アートを通じた地域協働支援事業」を立ち上げて公募した。6件の団体から申請があり、厳正な審査を経て、県内を拠点して多彩なアート・プロジェクトを展開している2団体が採択された。

2団体のいずれも興味深いプロジェクトが展開されたことから、以下にその活動の概要を紹介したい。

1. 「アーティストがつくるアート温泉宿～アートルイノベ」<実施場所：大崎市>

★採択団体：一般社団法人 MMIX Lab（滞在所 NAAARU及びNARUKKO）

MMIX Labは、アーティストであり宮城教育大学教授の村上タカシさんを中心に創設され、県内各地に滞在施設を運営しながら、多彩なアート・プロジェクトを展開している。その一環として、東日本大震災で出た廃材を活用した、あるいは空き家をリノベーションして再活用しての宿泊施設（ゲストハウス）NAAARUを立ち上げた。空き家や空き店舗が増え、人口も減少している温泉街に元気を取り戻すことを目的に、大崎市内外からの滞在客を呼び込む循環型の地域再生プロジェクトを鳴子温泉に立ち上げたのである。

今回のプロジェクトでは、滞在施設にアーティストが滞在しながら、アート作品を創作し、唯一無二の滞在施設とすること、また、創作の過程で地域の方々とも交流することが目指され、気鋭のアーティストである開発好明さんと若手作家の上平晃代さんが滞在して、それぞれ壁画と襖絵を創作した。

開発さんは東京都現代美術館で個展が開催されるなど近年目覚ましい活躍を遂げており、その最新作のカラージュ作品を壁絵として創作し、上平さんは、地域の探索や地域の方々との会話を通じて鳴子にも「おしらさま」伝説が伝承されていた歴史を掘り起こし、人間と動物とのつながりを創作のモチーフとして襖絵を創作したのだが、この地域に滞在しなければ生まれなかった作品でもあり、この土地の風土が作家の創作意欲を刺激したと言える。

また、地元のアーティストも参加したワークショップを通じ、地域の方々との交流も行われ、プロジェクトの成果としての作品もお披露目されるなど、今後、地域に根付いた多彩な活動が展開されることが期待される。

◎関連サイト

・NAAARU <http://naaaru.jp/>

・MMIX Lab <https://mmix.org>





み や ぎ

文化芸術レポート



令和8年7月「宮城におけるアーティスト・イン・レジデンス（R7事業報告）」

2. リンダ・リー ショークース「Ko wai au? Ko wai au（私はだれ？私は水です）」＜実施場所：塩竈市＞

★採択団体：仙台湾燻蒸株式会社文化事業部（ビルド・フルーガス）

塩竈市に拠点としているビルド・フルーガスは、地域に根付いた活動を実践してきているギャラリーだが、アーティスト・スタジオの本多工房も運営しており、今年ちょうど設立20周年を迎えた。また、塩竈市杉村惇美術館の指定管理団体でもある。

ビルド・フルーガスは、2012年に立ち上げられた「Shared Lines Project」を通じてニュージーランド（以下、NZ）のアーティストや文化芸術団体と継続的に交流している。同プロジェクトは、自然災害による被災地域としての共通事項を抱える両地域をつなぎ、文化芸術を通じて地域の再生力や連携を図る試みである。自然災害は両国に共通する課題であり、地球全体の課題でもある。そこで、NZの先住民族マオリの文化を継承するリンダ・リーを塩竈市に招き、リーは同市に滞在しながら両国に継承されている地震にまつわる民話や神話をリサーチするとともに、日本の文化人類学者との対談、子供たちとのワークショップを行った。これらの活動を通じてリーは両国の神話や民話には共通点があると再確認できた。また、リーは、情報は物語の中に埋め込まれ、物語には娯楽性があり、物語が語られる時期は決まっており、語り継がれる際の正確さも求められ、これらすべてが情報の伝達を成功させる要因だとして、神話や民話の伝承の重要性も指摘している。

プロジェクト名の「Ko wai au? Ko wai au（私はだれ？私は水です）」というマオリの言葉は、アイデンティティ、祖先、帰属意識と深いつながりを有し、生命の起源・象徴である水と結び付けられており、日本でも龍や鯰が地震や水の象徴として取り上げられているのであり、日本とNZとの文化芸術活動による今後の交流の進化と深化が期待されるプロジェクトとなった。



◎関連サイト

・ビルド・フルーガス

<https://birdoflugas.com/>

<https://www.sharedlines.org.nz/ramatkorkur>

・Shared Lines

<https://www.sharedlines.org.nz/collaborators>

<https://www.sharedlines.org.nz/ko-wai-au>

県の「アートを通じた地域協働支援事業」は今年度も実施することとしており、7月上旬の現在、令和8年度のAIR団体を募集している。関心がある方は確認していただければ幸いです。（※2）

〔注釈〕

※1 <https://air-j.info/residence/>
2026年5月7日現在

※2 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/syoubun/ginga/air.html>
2026年6月19日～7月21日の期間で募集